

平成 28 事業年度の業務実績に関する
評価委員会における提言

【素案】

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学に係る平成28事業年度の法人の業務実績に対する評価及び指摘事項等について、和歌山県及び公立大学法人和歌山県立医科大学に対する各委員の提言を、下記のとおり取りまとめた。

記

【教育】

- 最近の全国的な傾向として、専門医志向が強くなり、大学院に進学する人が少なくなっている。大学院をどのように位置付け、その魅力をどのようにアピールするかなどの検討を行い、大学院の充足率の改善・活性化に向けた取組を検討されたい。

【研究】

- 臨床研究中核病院を目指すなど、臨床研究に注力している一方で、基礎研究がやや停滞しているように思われる。基礎研究と臨床研究のレベルがバランス良く向上することを期待したい。
- 大学における研究活動（基礎研究、臨床研究）は、若い世代の人達にとって大きな魅力であると考え、インセンティブを高める努力が期待される。

【研究・臨床】

- 研究、診療にかかる取組について、学生、教職員はもとより、県内さらには全国に対してアピールできる明確な柱（強み、特色）の確立が期待される。

【臨床】

- 特定機能病院における医療安全の確保を図るための医療安全管理部門の体制整備について、経過措置を待たず、専従の医師配置を検討されたい。

- 先進医療においても成果を上げているが、今後、更に優秀な人材が集うような附属病院を目指し取り組まれない。
- 紀北分院に総合診療医の育成のため「地域包括ケア病床」を開設したところであるが、総合診療医の育成にかかる、紀北分院の位置づけを明確にされたい。
将来的には、独立講座、独立科として専門医、指導医を充実させ、総合診療医育成、和歌山県の地域医療の向上に貢献されることを強く期待する。

【地域貢献】

- 和歌山県においては、地域医療を担う医師の充実が大きな課題である。地域医療の充実に向けて和歌山県立医科大学がどのように貢献するか、その具体的な取組が期待される。

【運営体制】

- 人件費の抑制が求められる。理事長のリーダーシップのもと、各部署において適材適所の人員配置がなされているか、過不足がないか等、常に点検するよう努められたい。